

2017年5月 会社の雰囲気を1W明るくするコミュレポ

皆さん、こんにちは。私は、コミュニケーションについての気づきを毎月1回、振り返ることにしています。せっかくなので日頃お世話になっている皆さんにもシェアできればと思いこのようなレポートを記述することにしました。ご笑読頂ければ幸いです。

丹羽/佐之

緻密な計画の落とし穴！？

「旅行の計画」「年次計画」…「計画」とはいろいろありますが、あなたは計画を立てるのは好きですか？ 「計画性がない」ことのデメリットはすぐに思い出されますが、「計画」も行き過ぎるとデメリットがあります。私自身、仕事、特にコンサルティング業務においては、「計画」はとても重要なものと位置付けています。ユメオカ・コンサルタント育成アカデミーでも最初にユメオカ・コンサルタントの5つのスタンスの一つにも「計画」が不可欠である

★解決策を常に持ちながら、そこに縛られない柔軟性をあわせ持つ

という項目があります。

「解決策を持つ」とは、「緻密な計画を立てる」とも言い換えられます。コンサルティングを行う際、1年のスケジュールをまず顧客と共有し、コンサル日の1日スケジュールに落とし込みます。「1年後のゴール、そして1年計画」さらに「1日のゴール、1日計画」を準備してコンサルティングに臨みます。私自身、10年間ずっとそうしています。

しかし、実際のコンサルティングの場ではその通り行くことは、まずありません。「50%は計画通り、50%は計画外に」が普通です。実際の現場では「主要なスタッフが家庭の事情でやむなく退職することになった」「5年はいてくれるはずだった勤務医が3年で退職することになった」など想定外のことが起こります。その状況を考えると、当初予定していた計画案から大きく軌道修正も必要になってきます。しかし、ゴールを明確にし、計画を綿密に練れば練るほど、無意識にそこに縛られることがあるのです。「せっかく考え抜いた計画を遂行していかないと・・・」というようにと無意識にも意識が働くのです。コンサルタントがそうになってしまうと医院で起きている状況を鑑み、軌道修正案をつくることに関心が向かなくなります。すると院長とコンサルタントでギャップが生じ、お互いに何か違和感を感じはじめてしまいます。「時間をかけて考えた計画（仮説）」ほど無意識に提案、実施したくなる衝動は、コンサルティングに関わらないことかもしれません。旅行でも、計画を丁寧に練れば練るほど、そこに縛られます。では、計画を立てない方がいいのか？ といえば、そうではないでしょう。先にも述べたように「緻密な計画」は「解決策」だからです。「こうしたら、こうなって、うまくいくはずなのに…」が計画通りに行かないとき思う、ジレンマです。「計画を立てる」最大のデメリットは、「そこに縛られるかもしれない」と自覚できないことです。一生懸命、丁寧に綿密に、時間をかけて計画を立てながらも、50%は計画外になるなど観念することが重要だと考えています。そうすれば、解決策（計画案）を持ちながら、それを白紙にして再度、現場で考え直すこともできるためです。ゆえに「解決策を持ちながら、柔軟性を併せ持つ」スタンスを大事にしています。もしかしたら歯科医師の方がつくる長期の治療計画も同じことなのかもしれません。あなたは計画に縛られて、問題を増やしていませんか？